

HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

CAMPUS MASTER PLAN

国立大学法人兵庫教育大学 **キャンパスマスタープラン**



兵庫教育大学キャンパスマスタープラン 目次

学長メッセージ

兵庫教育大学キャンパスマスタープランの位置づけ・策定プロセス

- I キャンパスの基本方針
 - 1-1 アカデミックプラン、経営戦略との関連性
 - 1-2 キャンパスの現状について

- II キャンパスの整備方針・活用方針
 - 2-1 教員養成フラッグシップ大学
 - 2-2 環境に関する基本方針と目標
 - 2-3 教員研究室等の整備方針

III 兵庫教育大学施設マネジメントシステム

- IV 嬉野台フレームワークプラン
 - 4-1 ゾーニング計画
 - 4-2 パブリックスペース計画
 - 4-3 動線計画
 - 4-4 交通計画

- V 部門別計画
 - 5-1 教育機能の発展
 - 5-2 キャンパス環境の充実
 - 5-3 サステイナブルキャンパス計画
 - 5-4 インフラストラクチャー計画
 - 5-5 インフラ長寿命化計画
 - 5-6 施設整備計画

VI スペースの有効活用マスタープラン

VII 屋外体育施設・課外活動施設マスタープラン

VIII 学生寄宿舍マスタープラン

IX 職員宿舎マスタープラン

X 附属学校園マスタープラン

CONTENTS

目次



学長メッセージ

兵庫教育大学は平成24年6月に、大学創設の趣旨・目的、ミッション・ビジョン等に基づき、長期的視点に立った計画的な整備を行うために「兵庫教育大学キャンパスマスタープラン2012」を策定した。

しかしながら、大学を取り巻く環境の変化、大学自体の大学経営戦略の変化等により、キャンパスに求められる施設機能は時々刻々に変化する。そのため、中長期的なキャンパス整備の方向を定めるキャンパスマスタープランも変化する必要がある。

兵庫教育大学では、平成28年7月の役員会においてキャンパスマスタープランの見直しが決定され、キャンパス環境委員会において見直しを行い、「兵庫教育大学キャンパスマスタープラン」を改訂した。

「兵庫教育大学キャンパスマスタープラン」以下、「兵教大CMP」という)では、平成28年7月の役員会において示されたキャンパス像、将来計画を実現するために、将来を見据え計画的な施設整備を行う上で最も重要な基本方針、整備方針、活用方針を全面的に見直した。部門別計画等として、学生寄宿舍マスタープラン、屋外運動施設・課外活動施設マスタープラン、職員宿舍マスタープラン、スペース利用規則、バリアフリーマップ等を取りまとめた。今後は検討を加速し、継続的なキャンパスマスタープランの見直しを行う予定である。

また、兵庫教育大学ではキャンパスマスタープランを見直すにあたり、キャンパス環境委員会及び施設担当課だけで検討するのではなく、学長のリーダーシップのもと、キャンパスマスタープランを見直すための全学横断的な専門委員会、各種専門部会を設置している。各会は、役員、教員、学生委員会委員、事務局各課長・副課長等、様々な立場の人間が委員となり、兵庫教育大学のキャンパス像、将来計画を実現するための検討を進めている。

兵庫教育大学はキャンパスマスタープランを抛り所として、学長、役員ならびに教職員一同が、ミッションの遂行、ビジョンの実現、インクルーシブ化を目指すとともに、教育研究のオンライン化にも対応する魅力あるキャンパスづくりに取り組んでいきたい。

令和6(2024)年4月
国立大学法人兵庫教育大学 学長
加治佐 哲也

I キャンパスの基本方針

I キャンパスの基本方針

兵庫教育大学キャンパスマスタープラン基本方針

- (1) ミッションを遂行し、ビジョンを目指すために必要な機能を備え、国の教育政策に対応し、時代の変化と社会的要請に応えるキャンパス
- (2) 「教師教育のトップランナー」を目指し、「教員養成の高度化」に継続して取り組み、国際化に対応できるキャンパス
- (3) 教員養成・研修の「地域拠点」であるとともに「全国拠点」となるキャンパス
- (4) 安全で快適な学習環境と快適で効率的な職場環境を提供するキャンパス
- (5) 地域や卒業生、修了生との連携を図り、地域や教育の活性化に貢献し、地域住民、卒業生、修了生、在学生等にとって魅力あるキャンパス
- (6) 開学以来培われてきたキャンパスの普遍的要素を踏襲しつつ、充実・発展するキャンパス
- (7) 自然環境に配慮し、持続可能な発展を目指すキャンパス

○兵庫教育大学の創設の趣旨

兵庫教育大学は、教育基本法(平成18年法律第120号)の精神に則り、学校教育にかかる諸科学の理論と応用に関する研究を総合的に推進し、文化、社会の発展に資する創造的知性と人間愛に支えられた教員を育成し、もって教育、学術、文化の進展に寄与することを目的として設置されている。

○兵庫教育大学の開学当初のキャンパス計画の理念

- ①教育者として深い人間性を醸成するように、暖かさ・感情・友愛等人間性の基調となる要素を反映した計画とする。
- ②地域の持つ特色を生かしつつ、文化的な環境を準備して、全学生に均衡のとれた人格を形成する機会がもてるように配慮する。
- ③敷地の自然環境を十分考慮し、キャンパス全体が、新構想大学にふさわしい雰囲気醸し出すように配慮する。
- ④キャンパスの周辺及び地域社会との関連性を十分考慮した物とする。

○兵庫教育大学が醸し出す個性・魅力

- ①自然への敬愛を増し安らぎ・心地よさなどの情操面を豊かにする、自然と調和の取れた緑豊かな屋外緑地環境「アカデミックグリーンキャンパス」
- ②各所に計画的に配置されたゆとり空間により生み出される、盛んな交流・賑わい
- ③新構想教育大学としての計画的な建物配置、教育者を目指す学生の学びへの情熱等によって、キャンパス全体に醸し出されている凛とした雰囲気

1-1. アカデミックプラン、経営戦略との関連性

兵庫教育大学キャンパスマスタープラン基本方針（以下、「兵教大CMP基本方針」という。）の策定にあたり、本学のアカデミックプラン、経営戦略である兵庫教育大学の「ミッション」、「ビジョン」等に配慮した。下記に兵庫教育大学の「ミッション」、「ビジョン」を示す。

「兵庫教育大学のビジョン」は本学の教育・研究機能、地域・社会への貢献等『大学として目指す姿』であり、兵教大CMP基本方針はそのビジョンを実現するための、ハード面における『大学として目指すキャンパスの姿』である。

○兵庫教育大学のミッション

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会的要請に応えるために、次の使命を遂行します。

1. 現職教員に対する高度な専門性と実践的指導力の育成

現職教員に対し、教育現場の課題を踏まえた学びの場を提供することにより、専門職として高度な専門性と実践的指導力を育成します。

2. 実践力に優れた新人教員の養成

豊かな教育環境を生かして、実践力と人間性に優れた新人教員を養成します。また、教育大学の特性を生かして、学校教育分野の心理専門職を養成します。

3. 教育実践学の推進

学校教育に関する理論と実践を往還・融合した研究（「教育実践学」）を推進し、優れた研究者を養成します。

4. 教師教育の先導的モデルの構築

国内外の学校教育の課題やニーズを不断に捉え、新しいカリキュラムや教育方法を主体的に改善・開発することにより、教員養成・研修の先導的モデルとなります。

5. 教育研究成果の国内外への発信

教育と研究の成果を地域や広く国内外に発信し、学校の教育活動に生かします。

○ミッションの再定義(平成 25 年)

「大学院における現職教員の再教育・研修（管理職研修等）の拠点」

○兵庫教育大学のビジョン

兵庫教育大学は、次のような大学を目指します。

◆「教師教育のトップランナー」

高い専門性と確かな実践力を備えた教員を養成するとともに、先導的な教育研究を推進して、教師教育の実践と研究における全国拠点（ナショナルセンター）並びに地域拠点（リージョナルセンター）となります。

◆「学生の持てる力を最大限に引き出す大学」

質の高い教育内容と充実した学習環境を提供して、学生一人ひとりがその可能性を最大限に伸ばし、高い達成感と満足感を得られる大学となります。

◆「成長し続ける大学」

時代に即応する教育研究と大学運営を効果的に遂行できる環境を整備して、教職員の帰属意識を高め、成長し続ける大学となります。

○兵庫教育大学附属学校園のミッション

○大学と一体となった先導的な教育実践研究の推進

「教師教育のトップランナー」をビジョンとして掲げる大学と一体となり、先端的な教育手法を取り入れ、理論と実践の融合に取り組み、先導的な教育実践研究を推進します。

○新しい時代の教員養成に即した教育実習の実施

学校や社会の変化を見据えつつ、将来学校教員となる学生に対して教育実習を提供し、新たな時代を担う教員の資質・能力の向上に努めます。

○地域のモデル校としての役割の遂行

現代的教育課題の解決に挑む教育研究活動を推進し、その成果を地域社会に還元することによって、地域のモデル校としての役割を担います。

○兵庫教育大学附属学校園のビジョン

○学校像

先端的な教育環境のもとで、幼稚園、小学校、中学校の 12 年間を通して、園児・児童・生徒、教職員、保護者が一体となって、地域社会と連携しながら、一人一人の子どもの学びと成長が保障される創造性豊かな学校をめざします。

○子ども像

これからの社会において必要とされる情報活用能力を身に付けるとともに、主体的かつ対話的な教育活動を通して、心身ともにたくましく、未来を切り拓いていける知的創造力と寛

容性を兼ね備えた、グローバル社会で活躍できる人間を育成します。

○教員像

全国の自治体から附属学校園に派遣される教員が、附属学校教員としての自覚をもち、互いに敬意をもって高め合い、学校における働き方改革を踏まえ、先進的で優れた教育実践に取り組むことによって、地元自治体の中心的な教員として活躍できる資質・能力の向上に努めます。

1-2. キャンパスの現状について

兵教大CMP基本方針の策定にあたり、改めてキャンパスの現状を確認・把握した。既存キャンパスの個性・魅力といったキャンパスの『変えてはいけない部分』を兵教大CMP基本方針に反映した。一方、既存キャンパスが抱える課題等については、長期的に達成していく目標と短期的に実現する目標に整理した上で、次章の「兵庫教育大学キャンパスマスタープラン整備方針」、「兵庫教育大学キャンパスマスタープラン活用方針」に反映した。

【キャンパスの概要】

兵庫教育大学は、兵庫県加東市に加東キャンパス（嬉野台地区、山国地区）、神戸市に神戸キャンパスを設置している。兵庫教育大学の主要団地である加東キャンパスでは、嬉野台地区に大学院・学部等を、山国地区に附属学校園（幼稚園、小学校、中学校）等を配置している。



1)加東キャンパス嬉野台地区



a 土地面積, 建物面積

土地面積	401,735	m ²
建築面積	23,736	m ²
延べ面積	62,264	m ²

b 建ぺい率, 容積率

建ぺい率	5.91	% (法令等に規定する値 70%)
容積率	15.50	% (法令等に規定する値 400%)

c 敷地利用状況

1) 運動場ゾーン	15.3ha	(施設敷地 8.3ha 環境緑地 7.0ha)
2) 校舎ゾーン	18.8ha	(施設敷地 12.3ha 環境緑地 6.5ha)
3) 学生宿舎ゾーン	6.0ha	(施設敷地 3.5ha 環境緑地 2.5ha)

d 法的規制

都市計画区域	市街化調整地域
防火地域	指定なし
建築基準法22条地域	指定なし
日影規制	別表第4の4の区域
容積率	400%
建ぺい率	70%
公害防止地域	大気汚染, 騒音, 水質汚濁
構造規制	地震地域係数1種(Z=1.0), 地盤種別2種(Tc=0.6)

2)加東キャンパス山国地区

a 土地面積, 建物面積

	(002)山国 1	(004)山国 2
土地面積	44,556 m ²	44,719 m ²
建築面積	7,619 m ²	5,845 m ²
延べ面積	16,077 m ²	12,139 m ²

b 建ぺい率, 容積率

建ぺい率	17.0 %	13.0 % (法令等に規定する値 60%)
容積率	36.0 %	27.0 % (法令等に規定する値 150%)

c 敷地利用状況

1) 附属幼稚園ゾーン	施設敷地	5.0ha
2) 附属小学校ゾーン	施設敷地	30.0ha
3) 附属中学校ゾーン	施設敷地	28.0ha
4) 学校教育研究センター	施設敷地	0.8ha
5) 共通ゾーン	施設敷地	2.7ha

d 法的規制

都市計画区域	市街化地域
用途地域	第2種住居地域
防火地域	指定なし
建築基準法22条地域	指定なし
日影規制	別表第4の4の区域
公害防止地域	大気汚染, 騒音, 水質汚濁
構造規制	地震地域係数1種(Z=1.0), 地盤種別2種(Tc=0.6)
景観形成地区	加東市ヤシロメモリアルガーデン周辺地区



附属中学校



附属小学校



附属幼稚園

3)神戸キャンパス

建物名 神戸情報文化ビル（カルメニ）
借用面積 1,800 m²（2・3階の一部）



【キャンパスの現状について】

（キャンパスのゾーニング・建物配置等について）

- ・ 加東キャンパスは昭和 53 年 10 月に創設された新構想の教員養成大学であるため、現在ある建物のほぼ全てが開学当初のキャンパス計画によって一時期に建設された建物である。そのため、現状の建物配置は目的ごとに明確にゾーニングされており、建設時期の違いにより生じるゾーニングの不明瞭さ、不整合等は見られない。
- ・ 嬉野台地区は大きく3つのゾーンに分けられ、東側に宿舎ゾーン、中央部に管理・共通・教育研究ゾーン、西側に運動施設ゾーンとなっている。この明確なゾーン分けは、学生、教職員、学外利用者にとって合理的で利用しやすい配置となっている。
- ・ キャンパス内各所に計画的に配置されたゆとり空間が、学生、教職員、学外利用者等が自然に集い、盛んな交流、賑わいを生み出している。また、各建物内においても、人々の集い、交流を生み出すようなスペースが設置されている。

また、キャンパス中央部には交流・賑わいを生み出すセントラルスペース（中庭）を大きく取っており、その周囲に講義棟、学生会館、各研究棟等の主要な建物を計画的に配置している。そのため学内を移動する際の動線上にセントラルスペースがあることにより、より一層の交流・賑わいが生まれ、人と人をつなぐことによる教育研究活動の活性化に貢献している。また、セントラルスペースは各建物に取り囲まれているため適度な緊張感、凛とした雰囲気自然に生じ、教育者を養成する大学にふさわしい雰囲気を醸し出している。

- ・ 学生が教育者として深い人間性を醸成するように暖かさ・感情・友愛等人間性の基調となる要素として、また自然への敬愛を増し安らぎ・心地よさなどの情操面を豊かにし教育環境の向上を図るとともに、屋外での語らい・休息等、学生・教職員・学外利用者の交流の場として活用すること等を目的として、開学以来計画的に緑地・広場等の屋外緑地環境整備を進めてきた。自然と調和の取れた緑豊かな屋外緑地環境「アカデミックグリーンキャンパス」として、学内各所に計画的に配置されている植栽や広場、郷土の杜（都道府県の樹木や卒業

記念樹等を整備)、学生が気軽に自然とふれあう機会を提供するスチューデントファーム等がある。兵庫教育大学は、兵庫県加東市に加東キャンパス(嬉野台地区、山国地区)、神戸市に神戸キャンパスを設置している。兵庫教育大学の主要団地である加東キャンパスでは、嬉野台地区に大学院・学部等を、山国地区に附属学校園(幼稚園、小学校、中学校)等を配置している

(キャンパス施設の現状について)

- ・ 開学時の一時期に建設された建物については築40年前後となっている。全面改修実施済みの建物もあるが、本格的な改修を行っていないもの、また部分改修にとどまっている建物が残っている。安心・安全、教育・研究・学生生活環境基盤の強化、利用者へのサービス向上等のために、施設修繕計画、インフラ長寿命化計画等に基づく早期、かつ計画的な施設整備が求められている。
- ・ 学生寄宿舍は、単身用、世帯用ともに建設後39年以上が経過し給排水設備等ライフラインの老朽化が著しい。また、単身用は共同浴場、共同トイレ、共同キッチンなど機能の陳腐化が著しく学生のニーズに対応出来ない状況である。さらに、かつては大学院への現職教員獲得のためのセールスポイントの一つであった世帯用は、単身用と同様に浴室、トイレ、キッチンなどの機能が陳腐化し、室内は単身用以上に老朽化が著しい。下見する学生は多いが、老朽化や機能の陳腐化が原因で入居希望者数は減少し、入居率は年々低下している。学生寄宿舍に入居するメリットを明確化し、学生のニーズに対応する学生寄宿舍の機能と寄宿料を検証し、必要戸数、仕様のバリエーションについてシミュレーションを行い、最大限のコストパフォーマンスを実現する計画の策定及び施設整備が求められている。
- ・ 職員宿舎は建設後41年以上が経過し給排水設備等ライフラインの老朽化が著しい。特に第一職員宿舎(1～5号棟)については、老朽化が著しく入居率が低い状況であったため、第二職員宿舎(6～9号棟)に集約することとした。教職員のニーズに対応する職員宿舎の機能と宿舎費を検証し、必要戸数、仕様のバリエーションについてシミュレーションを行い、第一職員宿舎敷地の跡地売却を含めて、最大限のコストパフォーマンスを実現する計画の策定及び施設整備が求められている。
- ・ 屋外体育施設・課外活動施設は、開学以来、各種屋外体育施設等を利用し維持管理してきたが、近年老朽化が著しく既に更新の時期を経過している施設がある。更新には多額の費用が必要であり、継続して維持管理経費が必要となる。教育研究、課外活動に必要な施設のニーズや稼働率の検証を行い、学外施設の利用も視野に、施設の取捨選択を行い更新費や維持管理費の削減を実現する計画の策定が求められている。

(山国地区の現状について)

- ・ 山国地区の附属学校園においては、一部園舎を除く校舎の大部分が建設後 35 年以上経過し、建物は著しく老朽化していたため、令和 2 年度から順次、全面的な改修に着手している。また、附属学校園は学生の実践的指導力を培うための実習機会の提供、及び学校教育に関する理論と実践を融合した研究の場であり、その目的を達成するための施設機能の拡充に努めている。未改修の附属中学校の整備が急務である。
- ・ 実地教育に対して必要最低規模の現状クラス数を維持しつつ、基礎的かつ社会の要請に応じた実践的指導力を養うために、実習校としての機能を常に充実させる必要がある。未改修の部分については、実地教育の高度化に関連して、附属学校園内の先進的教育の実践のため、ユニバーサルデザイン化や IT 機器などを活用して、すべての子ども達に必要な応じた学習ができる仕組みを作るとともに、プロジェクト的な学習やアクティブ・ラーニングを促進する計画の策定及び施設整備が求められている。

(神戸キャンパスの現状について)

- ・ 神戸キャンパスにおいては、学校現場の職務実態を考慮し、現職教員の修学ニーズに 대응している。神戸キャンパスを拠点として、教職大学院新コースの設置、教育委員会との連携による研修を実施しており、令和 6 年 10 月からは新長田に機能を移転し、さらなる教育研究の拡充を図る。

II キャンパスの整備方針・活用方針

II キャンパスの整備方針・活用方針

兵庫教育大学キャンパスマスタープラン 整備方針

- (1) ガバナンス管理された戦略的な施設マネジメントによる機動的なスペースの再配分、保有施設総量の適正化、適正な維持管理・施設整備に基づいた安心・安全な施設管理等によりサステイナブルキャンパスを実現するキャンパス計画とする。
- (2) 計画的に老朽施設を改修し、環境負荷低減を実現するために、温室効果ガス排出量を毎年1%削減し、地球環境に配慮した快適なエコキャンパスを実現するキャンパス計画とする。
- (3) 大学経営を持続可能とするため、維持管理経費を毎年1%削減もしくは、施設収入等を毎年1%増収もしくは、その削減、増収を併せて毎年1%の効率化を可能とするキャンパス計画とする。
- (4) キャンパスの『変えてはいけない部分』(自然との調和の取れた緑豊かな屋外緑地環境「アカデミックグリーンキャンパス」、人の集い・交流・賑わいを生み出す「ゆとり空間」等のキャンパスの個性・魅力)を継承しつつ、より一層向上するキャンパス計画とする。
- (5) 学生寄宿舍・職員宿舎については、各マスタープランを作成し、最大限のコストパフォーマンスを実現し、かつ学生・教職員に快適な居住環境を提供するキャンパス計画とする。
- (6) 「学習・職務環境の向上」、「教員養成の高度化」、「社会連携の推進」、「教員養成・研修の地域拠点かつ全国拠点」、「国際化への対応」等に貢献するキャンパス計画とする。

兵庫教育大学キャンパスマスタープラン 活用方針

- (1) 施設は大学の経営資源であり、共有の財産であることから、利用者の既得権を前提とせず、大学構成員全員で有効に活用していく。
- (2) 厳しい財政状況の中でも教育研究活動に必要なスペースの質と量を確保するために、全学的見地から機動的にスペースを再配分し、保有施設の総量の適正化、施設管理に係るコスト増大の抑制を実現する。
- (3) 屋外体育施設や課外活動施設は施設のニーズや稼働率の検証を行い、学外施設の利用も視野に、施設の取捨選択を行い更新費や維持管理費の削減を実現する。
- (4) 上記(1)～(3)によって、新たな用途に転用できるスペースを確保できた場合は、基本方針に基づき有効に活用する。建物内スペースにおいては大学としての重点的な教育研究課題への対応等、屋外スペース(屋外体育施設の取捨選択や職員宿舎等の集約化等)においては、社会連携、地域への貢献、地域活性化を実現し、キャンパスが地域の財産となるように、広場や地域の方の利用に供するスペースとして活用する。

2-1. 教員養成フラッグシップ大学

— 教員養成フラッグシップ大学 —

Society5.0時代に対応した令和の日本型教育を担う教師の育成の拠点となり
他大学、地方公共団体、企業、地域との共創により教育の改善を先導する



教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会要請に応えるため、
全キャンパスを教師教育の実践と研究における地域・産業界との共創の拠点へ

加東キャンパス (嬉野台地区)

- 他大学・企業と協力し、学習者中心の授業、EdTech、教育データ活用、STEAM教育などのテーマについて先導的な教職科目の開発に取り組む。
- 社会的インパクト評価ツール開発、STEAM教育の実証研究など、企業との共創による研究を展開する。
- 教育相談や心理・発達相談などの教育支援活動を実践し、地域に根ざした活動を行っている。
- 包括的連携協定を締結している周辺の市や財団法人との連携講座を開催。

加東キャンパス (山国地区)

- 山国地区に所在する附属学校園は、大学と一体となった先導的な教育実践研究を推進するとともに、その成果を地域社会に還元する地域のモデル校としての役割を果たすとともに、全国各地の教育委員会から派遣された教員が、大学と連携した実践的教育を学び、派遣元に還元している。
- 例年300名以上の教育実習生を受け入れており本学のみならず地域の教員養成に貢献している。
- 加東市と協力し子育て支援ルームを開設している。



神戸キャンパス

- 在職しながら大学院に通う現職教員をはじめとした社会人に学びの場を提供する『教育研究』拠点、教員養成の改革に向けた関係機関等との取組を推進する『連携・協働』拠点、教育の発展のため教育研究の成果を社会に還元する『情報発信』拠点として、様々な先導的取組を展開。
- 心理・発達相談等の地域の教育支援活動も実践。

神戸キャンパス (移転)

- 兵庫県と連携し、県立総合衛生学院建替整備事業に伴い、神戸キャンパス(ス)を同建物に移転することを決定。
- 移転により、現在の2倍以上の面積となり、現職教員・社会人のリカレント教育、心理専門職養成の拠点としてさらなる発展を目指す。

Society5.0の時代において必要となる高い専門性と実践力を備えた教員の養成、現職教員の再教育・研修の拠点として、キャンパス全体において地域・企業等との教師教育の共創に取り組む。
ハイブリッド授業、EdTech、STEAM教育に対応した情報基盤強化、多目的に使用でき学習者中心の教育に対応したアクティブラーニングスペースの拡充などの機能強化を進め、共創の促進と深化を図る。

2-2. 環境に関する基本方針と目標

○環境基本方針

地球温暖化、化石燃料枯渇など、様々な地球環境問題があり、文化、社会の発展において、これらの問題は無視することのできないものである。

兵庫教育大学は、環境負荷低減の取り組みを積極的に行い、地球環境に配慮したキャンパスをつくり、持続させることで、地球環境問題の解決に寄与することを目的とし、兵庫教育大学環境基本方針を定める。

1. 兵庫教育大学は、学長を最高責任者として、大学構成員一人ひとりの力を集結し、兵庫教育大学及び国等が行う施策に協力し、地域社会と連携するとともに、環境負荷低減の取り組みを推進する。
2. 学長は、最高責任者として、兵庫教育大学が行う環境負荷低減の取り組み（温室効果ガス排出削減、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等）について、目標を定め、計画を立案し、継続的に改善を図る。
3. 兵庫教育大学は、環境負荷低減の取り組みについて、周知、指導等を行い、環境意識の高い大学構成員の育成を行う。

○低炭素化基本方針

1. 「成長し続ける大学」として時代に即応する教育研究と大学運営を効果的に遂行できる環境を整備する中で、エネルギーの使用の合理化による低炭素化を推進する。
2. 構成員一人一人が資源を有効に活用することを心掛け、資源循環による低炭素化を推進する。
3. 「自然豊かなキャンパスで学生が若々しく前向きに学び、未来に羽ばたく大学」をあらわす緑をスクールカラーとしている本学らしく、キャンパス内の緑をより美しく豊かなものにしていくことにより低炭素化を推進する。

○環境目標

兵庫教育大学環境基本方針にもとづき、兵庫教育大学第4期中期目標期間における環境目標を次のとおり定める。

1. 温室効果ガス排出量削減、省エネルギーのため、嬉野台地区及び山国地区において、エネルギー使用量を年平均1%削減を目標とする。
2. 省資源、廃棄物削減等のため、3R活動を推進する。
3. 環境意識の高い大学構成員を育成するため、環境負荷低減の取り組みを周知し、指導を行う。
4. 環境目標達成に向けた取り組みの計画立案及び評価・改善提案をキャンパス環境委員会において行い、環境マネジメントを実施する。

2－3. 教員研究室等の整備方針

○教員研究室・実験室・実習室等の整備方針

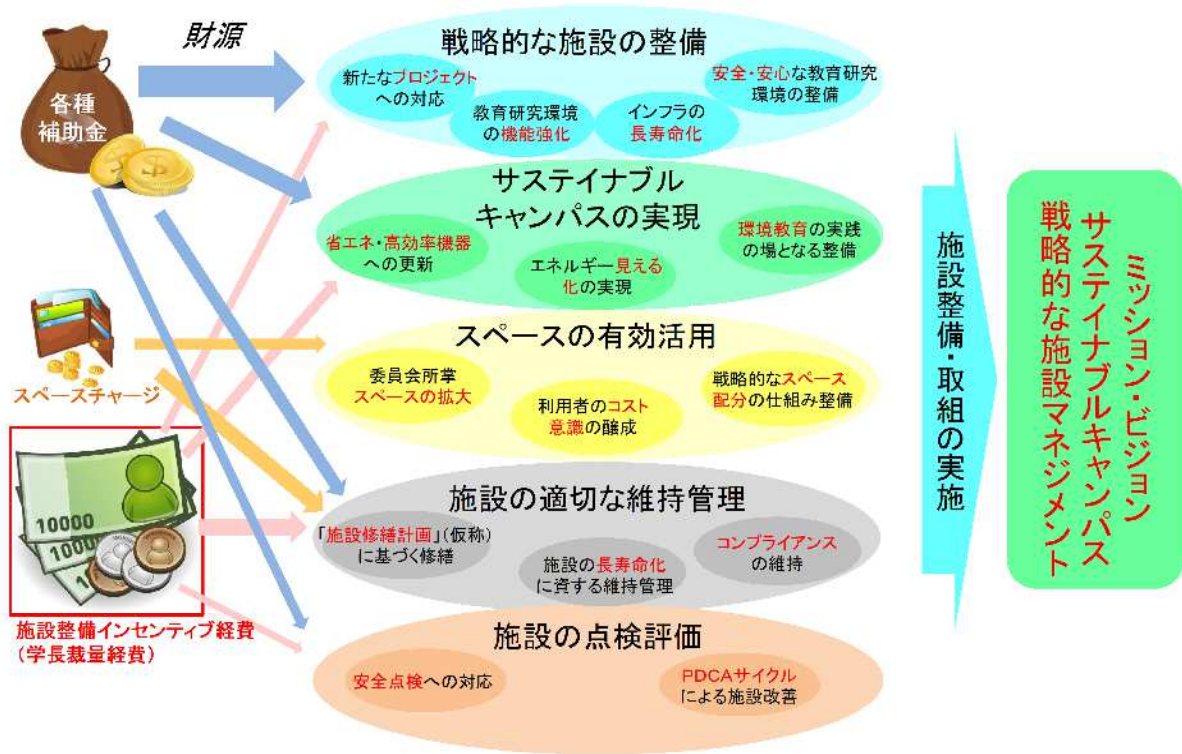
1. 教員研究室・実験室・実習室・講義室等，本学の教育研究に係る施設は全学的に管理し，目的・用途に応じた施設の需給度合い，利用度等を踏まえ，個々の教育研究活動に対して適切な環境を整備する。
2. 教員研究室・実験室・実習室等の割り当てにおいては，国立大学法人等建物基準面積算出表により算出した専攻・コース別面積を整備に当たってのガイドラインとする。
3. 教員研究室・実験室・実習室・講義室等の教職員が使用する全ての室はキャンパス環境委員会預かり室とし，第1項の趣旨に則り，全学的な見地から利用方法を検討し，前項のガイドラインのもと，運用しようとするものである。
4. 第2項のガイドラインに示された基準面積を大幅に超えて使用している専攻・コースは，使用実態を考慮しながら可能な限り，スペースの供出に協力する。
5. 特任教員，客員教授及び客員准教授等は，原則として複数名で教員研究室1室を使用する。
6. 棟名称を共通的な名称に変更する。

III 兵庫教育大学施設マネジメントシステム

III 兵庫教育大学施設マネジメントシステム

兵庫教育大学では、大学経営に求められる施設戦略を推進するため、「兵庫教育大学施設マネジメントシステム」を策定した。(平成28年7月役員会承認)

また、施設マネジメントシステムを実現させるための財源として、学長裁量経費において「施設整備インセンティブ経費」を創設した。維持管理費の削減に資する施設整備を実施することで削減された維持管理費の一部を、施設整備インセンティブ経費として再配分し、さらなる維持管理費削減、適切な維持管理の好循環を構築するものである。



IV 嬉野台フレームワークプラン

IV 嬉野台フレームワークプラン

4-1. ゾーニング計画

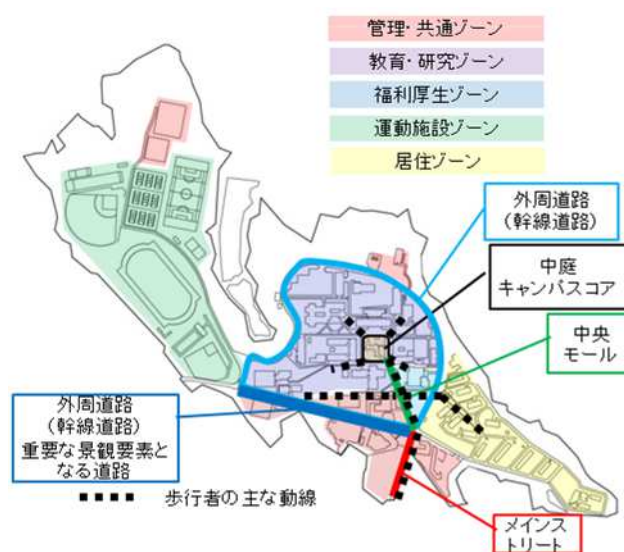
加東キャンパス嬉野台地区は、計画的に整備されたキャンパスであるため、基本的には現状のゾーニング計画を大きく変更するところはない。

ただし、大学のミッション、ビジョン等の変更に伴う、将来的なゾーニングの変更にはフレキシブルに対応する計画とする。新築や増築等を行う場合は、建物相互の機能関連及び建物間の人の移動状況等を踏まえ、利便性が高く、機能的で使いやすい計画とする。

既存キャンパスは、メインストリート、中央モール、重要な景観要素となる道路（外周道路（幹線道路））が大きな空間軸を作っている。中央モールはケヤキ並木とツツジが帯状に整備され、植栽による空間軸も作られている。キャンパス中央部の中庭は、正方形の形をしており、北と西に研究棟、南に講義棟、東に附属図書館を配置し、各建物の正面玄関は中庭を向いており、群としての調和を保っている。また、重要な景観要素となる幹線道路沿い（北側）に、地域貢献や産学連携にかかわる施設を配置し、群としての調和を保ち、利便性に配慮されている。新築、増改築等を行う場合には、これら既存の空間軸、群としての調和、景観等を踏襲した計画する。

解放的な中庭は、ゾーニング、動線、パブリックスペース計画それぞれと連携して、大学生活のそれぞれの目的に応じて活動を開始する中心とし、キャンパスコアと位置づけ、中庭を中心に建物配置を計画する。正方形をした中庭の外周を取り囲むように建物を配置し、各棟の玄関は中庭に向け、利便性・機能性に配慮する。また、建物相互間には歩行用通路を設け、密集せず、バランスのよい建物配置とする。

駐車場は、学内の外周道路沿いの教育・研究ゾーン周辺部に設定し、教育・研究ゾーン中央部には、乗り入れを制限する。



(管理・共通ゾーン)

構内出入口、キャンパス内の各所からの利便性を考慮し、キャンパスの幹線道路部に管理・共通ゾーンとして、事務局・講堂等を配置する。また、正門を入った位置に、グリーン空間としてローンステージ、キャンパス中央部に中庭を配し、大学教育・研究施設にふさわしいゆとり空間を設定する。

式典やイベント等を行う講堂及び各種窓口となる事務局はメインストリートに近い場所に配置する。大学間、地域貢献や産学連携等の学外者とかかわる施設は、ゾーン、動線、パブリッ

クスペース計画に配慮し、外来駐車場がありアクセス性がよい重要な景観要素となる道路沿いに集約し配置する。

運動施設ゾーン北側の旧バスケットコート等は、現在、管理・共通ゾーン（環境配慮）として、太陽光発電設備が設置されている。

（福利厚生ゾーン）

福利厚生ゾーンとして、大学会館など管理・共通ゾーンに併せ配置する。なお、リフレッシュ空間としての福利厚生ゾーンの中央に芝生広場（グリーン空間）も一体的に配置する。

（教育・研究ゾーン）

教育・研究ゾーンは、共通講義棟、各研究棟等をキャンパス内の管理・共通ゾーン、福利厚生ゾーンに緊結してキャンパス中央部に配置する。

棟毎に教育・言語・社会系、自然・生活・健康系等を集約し、実験室等の共同利用を促す。自然系の建物では、小・中学校で行う実験のための模擬実験室等を集約化して共同利用する。

実験等で臭気、排ガスなどが発生する施設には所要の措置を講じるとともに、隣接建物に対して影響のない建物間距離等を確保する。また、騒音対策のため、バイク駐輪場は、共通講義棟から離れた場所に配置する。

（居住ゾーン、運動施設ゾーン）

キャンパス敷地東側には、学生寄宿舍、国際交流会館より構成される居住ゾーン、敷地西側には運動施設ゾーンを配置する。

（デザインの統一）

建物の色彩は、教育研究施設はアイボリー系に統一し、附属図書館はアクセントとして落ち着いた暖かみのあるブラウン系を採用することで、統一感をもたせつつ、建物のもつ性格にあわせて区分する。

4-2. パブリックスペース計画

正門から十字路までをメインストリート、十字路から中庭までを中央モールとして位置付け、メインストリート西側にグリーン空間としてローンステージ、リフレッシュ空間としてメインストリート正面にある福利厚生ゾーンの中央に芝生広場（グリーン空間）、キャンパス中央部に配置した中庭には、教育研究施設にふさわしい交流・賑わいを生み出すキャンパスのゆとり空間を設定する等、歩行者の主要動線や人々が滞留する箇所を見出して整備する。

解放的な中庭は、ゾーニング、動線、パブリックスペース計画から、教育研究施設、附属図書館、大学会館に囲まれ、大学生生活のそれぞれの目的に応じて活動を開始する中心であり、キャンパスコア部分となり、学び続ける教師を養成するにふさわしいラーニングコモンズとして一体的に整備を行う。

グローバル化や多様な利用者を見据え、ユニバーサルデザインに基づく安全で親しみやすい環境を提供するため、サイン、外灯及びベンチ等のデザインに統一性をもたせ、モニュメントを効果的に設置することなどにより、調和の取れたアカデミックグリーンキャンパスにふさわしい屋外環境を整備する。また、障害を持つ学生の支援等のため、障害学生支援室を設置した。（平成 29 年 4 月）

キャンパス周辺部については地域景観との調和に配慮するとともに、正門周辺は交流や賑わいの場となる講堂を中心に地域交流拠点として活用・整備する。

（緑地）

キャンパス内の建物配置、景観、パブリックスペース等を考慮して緑地範囲を明確にし、管理を行う。

メインストリート及び中央モールは、ケヤキ並木とツツジを帯状に整備し、歩行者の動線を作り、車両の動線となる外周道路（基幹道路）沿いはナンキンハゼの並木を整備する。

ローンステージ、芝生広場は、芝生を整備し、キャンパス境界付近は保存緑地とする。

大学会館周辺



メインストリート



ローンステージ



郷土の杜



スチューデントファーム



大学会館前



中央モール



4-3. 動線計画

安全、安心で利便性を考慮した快適な移動空間づくりを目標とする。

キャンパスの正門は周辺公共道路及びバス停に近くアクセシ性のよい現状の位置とする。正門は車両と歩行者、西門は歩行者のみ、東門は安全・防犯上から閉鎖とする。

正門から十字路までをメインストリート、十字路から中庭までを中央モールとして位置付け、車両はメインストリートから外周道路へ、歩行者はメインストリートから中央モールを抜け中庭へ導く。

車両は、正門からの入構に限定し、警備員を配置し、許可制にすることで入構規制を行い、安全・防犯対策、入構管理を行う。ただし、入試や大学祭等イベント時には、東門・西門を臨機応変に開門し、車両の一方通行を実施する等で安全かつスムーズな誘導を行う。

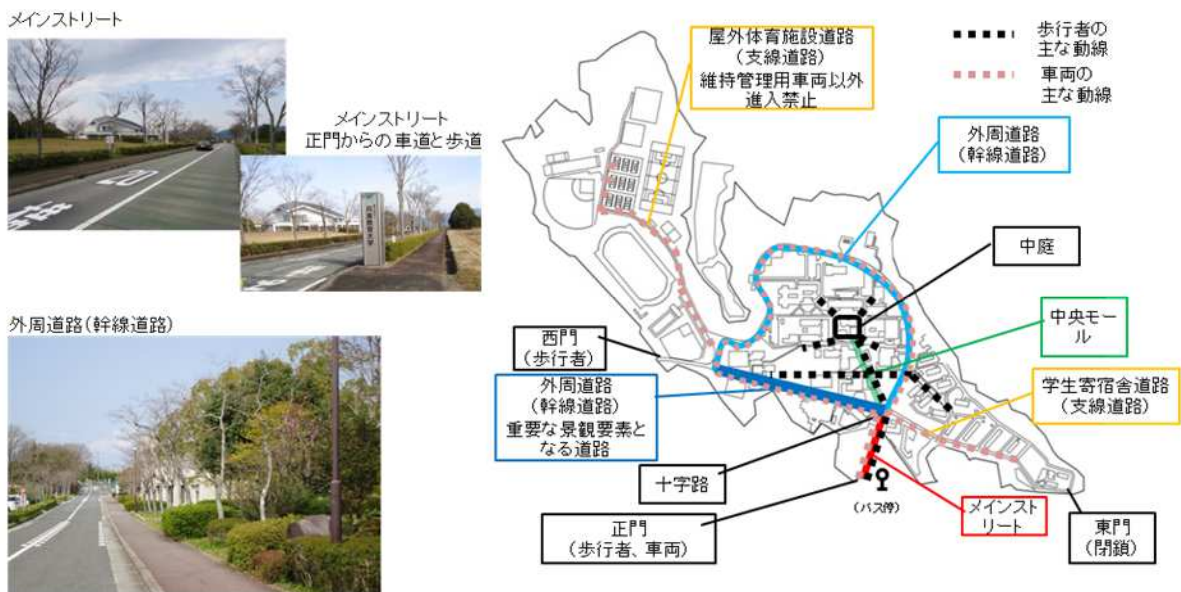
歩行者も利用するメインストリートは歩道を確保し、車両と分離する。外周道路より内側のエリアは車両の入構を原則禁止し、歩行者のみとすることで、安全性・利便性に配慮する。また、屋外体育施設に向かう道路は維持管理用車両を除き車両入構禁止を原則とし、利用者の安全を確保する。

外周道路（幹線道路）内に各施設を配置し、中庭はその中央に配置する。目的に応じて車両は外周道路、歩行者は中庭から各施設へアクセスすることで、利用者の安全性・利便性を確保する。

外周道路（幹線道路）は、教育研究等の各施設へのアクセスとして利用し、学生寄宿舍道路（支線道路）は学生寄宿舍、屋外体育施設道路（支線道路）は屋外体育施設の利用者専用の道路とする。

また、駐車場は、外周道路沿いに配置し、歩行者と交錯しないよう安全性・快適性を確保する。

障害を持つ学生などのため、スロープ・エレベータ等の整備充実を図る。視覚障害をもつ人々に対する整備については、特に重点的に実施する。



4 - 4. 交通計画

(通学手段及び山国地区との連絡)

加東キャンパスは、キャンパスの立地条件から公共交通機関はバスに限定されている。嬉野台地区は、市街地から大学へはわずか1日10本程度であるため、学内外問わず車で入構がほとんどである。学生の通学車両を減らし、学生の通学と生活の利便性を向上させるため、大学バス(カレッジバス)の運行を開始(平成23年度)し、現在、1日に中国道高速バスPA(兵教シャトル便)へ20本、加東市内(加東ループ便)へ5本、新三田(新三田シャトル便)へ3本を運行している。安全及び温室効果ガス排出抑制等の環境配慮のため公共交通機関であるバスや大学バスの利用を促進し、車両での通勤、通学等の抑制に努める。安全・環境等のため引き続き公共交通機関であるバスや大学バス利用を促進し、利用状況に応じて大学バスの増便や三田・宝塚方面へのルート運行を行っている。また、新たに西神南からのルート運行も計画している。

本学の教育の特色である「実地教育の充実」を実施する上で、大学がある嬉野台地区と教育研究施設のやまくにプラザ、附属幼・小・中の3校園がある山国地区とは約5kmの距離があり、開学当初より公共交通機関の利便が悪く教員・学生の移動は大半自家用車の利用となっている。このことは、次に述べるキャンパス内駐車場スペースの確保の問題につながる。本学では、学内LANの充実、遠隔授業システム等の情報通信系で解決を図れるか検討したい。また、人の移動に対しては、自家用車での通学・通勤を路線バス、大学運行バスに振り替えるなど移動のあり方をバス会社等の協議を含め根本的に見直す必要がある。

(駐車場)

通勤・通学車両については、安全・環境等に配慮し、公共交通機関や大学運行バスの利用を促進し、警備員を配置して入構を許可制にすることで入構規制を行い、安全・防犯対策、入構管理などの対策を実施した上で、必要があれば駐車場の増設を行う。

なお、既存駐車場及び駐車場から建物へのアクセスルートは、老朽劣化対策やバリアフリー対策等を行い、安全性を向上させる。

駐車場整備の場合は、学内の外周道路沿いに計画し、教育・研究ゾーンの中央部には乗り入れを制限する。

バイクは騒音の問題があるため、共通講義棟、総合研究棟から離れた場所に確保する。自転車は、建物周辺に確保して利便性の向上を図るなど、使用状況に応じ、教育・研究に配慮した整備を計画する。

不法駐車は運用面において指導を強化、放置自転車は年1回調査・処分する。

V 部門別計画

V 部門別計画

「I.キャンパスの基本方針」に記したアカデミックプラン並びにキャンパスの現状、「II.整備方針・活用方針」及び嬉野台地区においてはフレームワークプランに基づいて、「教育機能の発展」、「キャンパス環境の充実」、「サステイナブルキャンパス計画」を施設面の優先的課題とする。あわせて、「インフラストラクチャー計画」及び別に定める「インフラ長寿命化計画」をふまえ、具体的な「施設整備計画」を策定するものとする。

5-1. 教育機能の発展

嬉野台キャンパスにおいては、教職大学院の重点化に対応する実践教育スペースを拡充する。

神戸キャンパスにおいては、今後も現職教員の修学ニーズに応える必要がある一方、夜間授業のみならず、昼間においても社会のニーズに対応したコースの開発を推進するとともに新長田駅再開発地区に建設される兵庫県立総合衛生学院ビル(仮称)への移転を推進する。

附属学校園においては、園児・児童・生徒に安全・安心、かつ快適な学習環境を提供するとともに、今後も継続して学生・教員に必要な実習、実践機会を提供するために必要なクラス数を維持(附属幼稚園2クラス、附属小学校・中学校3クラス)するため、地域の中でも魅力的な附属学校園となるよう不断の機能向上に努める。

◎長期的に達成していく目標

- ・教員養成のフラッグシップ大学として、地方公共団体をはじめとする地域、企業及び他大学等との共創の「地域拠点」かつ「全国拠点」となる。
- ・安全・安心、先導的、かつ社会の変化に対応できる拡張性を持つ、魅力的な附属学校園の実現

○短期的に実現する目標

- ・教師教育、現職教員養成のナショナルセンターとなる教員養成・研修拠点を設置する。
- ・令和元年より実施している附属学校園の改修整備を推進し、老朽改善による安全・安心の実現と共に、大学・地域との共創拠点としての機能を実現する。
- ・学生の主体的な学修を促す質の高い教育を実現するためのアクティブ・ラーニング・スペースを整備する。

○整備及び活用の方向性

- ・幼稚園・小学校・中学校を順次、安全・安心で魅力的な附属学校園にするとともに教員養成・研修の「地域拠点」「全国拠点」として整備する。(令和6年度末までにオールリニューアル)

5-2. キャンパス環境の充実

キャンパス環境の充実には、特に老朽化の著しい学生寄宿舍、職員宿舎の施設整備が求められているとともに、厳しい財政状況の中でも教育研究活動に必要なスペースの質と量を確保するために保有施設の総量の適正化を含むスペースの有効活用を進めることが必要である。

◎長期的に達成していく目標

- ・ガバナンス管理された戦略的な施設マネジメントによる機動的なスペースの再配分、保有施設総量の適正化、適正な維持管理・施設整備に基づいた安心・安全な施設管理、等によるサステイナブルキャンパスの実現。

○短期的に実現する目標

- ・屋外体育施設・課外活動施設等の取捨選択により更新費や維持管理費の削減を実施し、適切な維持管理を継続できる体制を構築する。
- ・学生寄宿舍・職員宿舎についてそれぞれの機能と寄宿料等を踏まえた必要戸数とし適切な維持管理を継続できる体制を構築する。
- ・福利施設を集約化し学生・教職員等の利便性の向上を図るとともにスペースの有効活用を実施する。

○整備及び活用の方向性

- ・利用率が著しく低い体育施設等を廃止するとともに、集約可能な施設を多目的グラウンドとして整備する。
- ・必要最低限の学生寄宿舍・職員宿舎の規模設定とするとともに整備及び維持管理を計画的に実施する。(令和6年度に第1職員宿舎ゾーンの売却予定)

5-3. サステイナブルキャンパス計画

兵庫教育大学はキャンパス内に緑の空間が充実しているとともに、学生の自然共生・地球環境の保全への意識は高い。一方、省エネ性能の低い老朽施設が多いこともあり、より一層の省資源、省エネルギー、環境負荷の低減に貢献することが求められる。

○環境目標達成のための計画

「2-3 環境に関する基本方針と目標」に示した環境方針及び環境目標の達成のため、次の内容に配慮し、計画的に環境負荷低減に向けた取り組みを実施する。

- ・緑豊かな自然環境に配慮し、温室効果ガス吸収効果が見込めることから、緑地範囲を明確にし、緑地管理を行う。新営や改修等で建物配置等が変更となる場合には、キャンパス内の建物配置、景観、パブリックスペース等を考慮してキャンパス空間の秩序を尊重し、緑地範囲を確保し、建物周辺に設置する樹木には日射量調整のため落葉樹を採用する等で環境負荷低減とその持続性に配慮する。
- ・嬉野台地区においては、河川水質汚濁防止及び水資源の有効活用のため、生活排水処理施設を利用して雑排水を中水としてトイレ洗浄水へ再利用する。
- ・サステイナブルな建築を実現するため、「省エネルギー」「長寿命化」「エコマテリアル」「環境保全・景観形成」「安全・ユニバーサルデザイン」の視点からキャンパスの気候条件等を考慮し、サステイナビリティに関する施設整備の基本方針等を策定する。
- ・環境負荷低減に向けて、学長を最高責任者として、全学構成員による取組を推進し、取組の評価・改善提案をキャンパス環境委員会において行い、環境マネジメントを実施する。

取組項目	概要
設備更新等による環境負荷低減	設備更新においては、次の内容を基本プランとして計画する ○高効率空調機の採用 ○LED照明の採用 ○廊下、トイレ等の照明はセンサー式を採用 ○トイレの洗浄水には中水を採用（嬉野台地区のみ） ○トイレの擬音装置の採用 ○大規模改修等においては自然エネルギーの利用として太陽光発電の設置を検討
設備運用等による環境負荷低減	○空調機の適正な温度設定の推進（室温を夏季28度、冬季20度を基本） ○クールビズ、ウォームビズの推進（令和6年度以降年間通して実施） ○可能な範囲は昼休み消灯の推進
その他の取組による環境負荷低減	○公用車の利用において、省エネ運連・エコドライブを推進、公用車更新に当たってはエコカーを導入する ○通勤や通学等において、公共交通機関や大学バスの利用を促進 ○印刷物の両面印刷やペーパーレス会議の推進によるリデュース、HUTEリユースシステムの利用推進によるリユース、キャンバスクリーンデー実施による環境美化とゴミ分別によるリサイクルの実施 ○緑地管理範囲を明確にし、維持管理を行う。新営や改修等により樹木を設置する場合、建物周辺に日射量調整のため落葉樹を採用する。 ○エネルギーの見える化を行い、意識啓発を行う。 ○各種取組の周知、徹底により、環境意識の高い大学構成員を育成する。

設備更新は、光熱水費を含む維持管理費削減効果の高いものを優先し、兵庫教育大学施設マネジメントシステムの「施設整備インセンティブ経費」（学長裁量経費）を投資し、さらなる維持管理費削減、適切な維持管理の好循環を構築し、環境負荷低減を継続的に実現する。

5-4. インフラストラクチャー計画

ライフラインは、教育・研究の円滑な遂行を支えるための基盤であり、適切な維持管理に努める。

加東キャンパス嬉野台地区の校舎ゾーンは共同溝が各棟に接続されており、共同構内通路の左右で水と電気系統が区分、集約され、供給されている。水は1系統、電気はケーブルラック1段の増設が可能なスペースが確保されているため、将来の教育研究発展に伴う設備増加、IT関連の新たな配線、ライフライン改修等においても柔軟に対応することができるため、現状を継続して維持する。また、共同溝設置から30年以上経過しているが、亀裂や劣化等は見られず良好な状態である。

今後とも、安全性や効率性、地球環境に配慮しつつ、インフラの維持管理に努めるとともに、定期的な更新を推進していく。

1. 周辺環境、地球環境に配慮したインフラ計画

地球温暖化防止のため CO2 等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。

2. 設備機能の信頼性の向上を配慮したインフラ計画

設備機能の支障は教育研究に重大な影響を及ぼすため、設備機能の低下あるいは停止等が発生しない信頼性、安全性の高いシステムを構築する。

3. 保守管理の省力化を配慮した設備計画

増大する空調用需要電力に対し、ランニングコストの低減を図る空調システムの導入を計画する。

受変電設備は集約化し、保守管理コストの低減を図る。電力系統別エネルギー監視システムによりエネルギー監視を行うと共に、各棟の各種異常警報等も同システムに集約し、不具合発生時には速やかに対応できるよう配慮する。

高架水槽は1カ所に集約し、保守管理コストの低減を図る。

消火ポンプは1カ所に集約し、保守管理コストの低減を図る。

各棟へのエネルギー供給ルートは共同溝に集約、整理し、配管・配線の合理化や維持保全の省力化を図る。設備機能の支障は教育研究に重大な影響を及ぼすため、設備機能の低下あるいは停止等が発生しない信頼性、安全性の高いシステムを構築する。

4. 省エネルギー計画

高効率型機器の採用、熱負荷の低減、エネルギーの有効利用、搬送動力の低減、自然エネルギーの利用等を考慮した計画とする。

エネルギー監視システムは、棟単位、各棟の空調等幹線系統単位等のエネルギーを監視し、学内LANを通じて閲覧できるよう見える化を図る。エネルギー監視システムで収集したデータは、分析を行い、エネルギー使用状況に無駄が無いかなどを確認すると共に、空調運転方法を改善する等、更なる省エネ対策の資料とする。また、エネルギー監視システムと連携した空調システム等を導入し、デマンド電力により空調を自動的に抑制運転（タイマー制御、運転能力抑制等）させる等で契約電力抑制を行い、省エネ及び環境負荷低減にも寄与する。

○加東キャンパス嬉野台地区 インフラストラクチャーの現状と計画

電力設備	現 状	計 画
引込み	高圧架線引込み	変更なし
回線数	常用1系統電力引込み	変更なし
変電設備容量	4,035KVA	変更なし (機器集約)
デマンド電力	1,287kW	変更なし
契約種別	特定規模電気事業者と契約	変更なし
構内配線敷設	共同溝、管路埋設方式	変更なし
停電対策	なし	防災上必要最低限の整備
省エネルギー	旧型変圧器 旧照明機器	高効率型変圧器 省エネ照明機器

情報通信設備	現 状	計 画
電話設備	電話交換機 (デジタル電子交換機)	電話交換機 (デジタル電子交換機)更新
情報設備	平成6年度に全学学内LAN (FDDI)構築 平成13年度にギガビットネットワーク構築	変更なし
防災電気設備	各建物の感知器等はP型設備	P型で更新
集中検計設備	なし	電力系統別エネルギー管理

熱源設備	現 状	計 画
ボイラ	なし	変更なし
冷凍機	空冷式ヒートポンプ空調機	変更なし

空調設備	現 状	計 画
空調方式	セ/レート形の個別空調機 空冷式ヒートポンプ空調機 (ビル用マルチ)	変更なし

ガス設備	現 状	計 画
使用先	LPG 学内全域 (実験・生活用)	変更なし
配管	構内ボンベ庫より 配管	変更なし

給水設備	現 状	計 画
水源	市水・中水	変更なし
給水方式	受水槽・高置水槽方式 (重力方式)	変更なし
配管	構内基幹配管(共同溝)	構内基幹配管(共同溝)

排水設備	現 状	計 画
一般排水	排水処理施設 (中水利用・公共用水路 へ放流)	変更なし
汚水排水	排水処理施設 (中水利用・公共用水路 へ放流)	
雨水排水	公共用水路へ放流	
実験排水	実験排水処理装置 (処理後直接公共用水路 へ放流)	

5-5. インフラ長寿命化計画

兵庫教育大学では、2016年(平成28年)7月13日に「兵庫教育大学インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定し、2019年(平成31年)3月15日に、行動計画にもとづく個別施設毎の計画として「兵庫教育大学インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」を策定している。

キャンパスマスタープランは、大学の戦略や教育研究の将来構想、キャンパスの現状把握等を踏まえ、大学のビジョンや戦略を実現するために、戦略的な施設の整備やマネジメントを行うために策定するものである。

インフラ長寿命化計画は、教育研究の基盤である建物及びライフラインの老朽化に対し、適切に維持管理・更新していくための考え方や内容を示すものであり、キャンパスマスタープランを補完するものである。

本キャンパスマスタープランに基づき、寿命化に向けた施設マネジメントの取組として、「1. 施設の総量の最適化と重点的な整備(施設のトリアージ)」、「2. サステイナブルな仕組の構築」を掲げており、着実に実施していくことにより、教育研究基盤の良好な維持に努めるものとする。

5-6. 施設整備計画

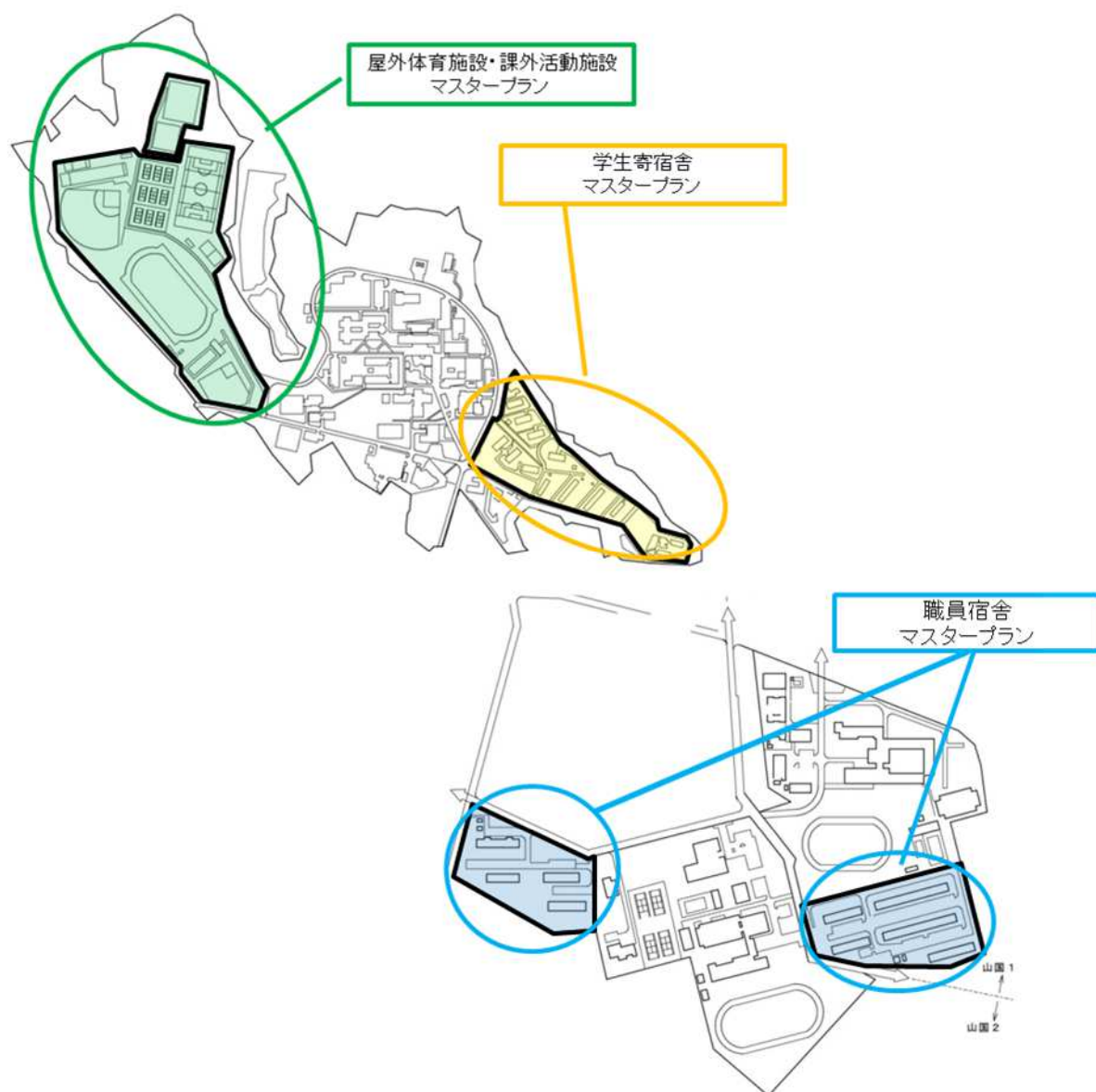
加東キャンパス嬉野台地区及び山国地区は、計画的に設置されたキャンパスであるため、建設年度が近接しており、機器更新や、建物施設の大型改修に要する時期が一時期に集中することが懸念されている。

大半の施設は経過年数 35 年以上の老朽建物となり、大規模改修の時期を迎えており、緊急性や老朽度を勘案し順次機能改善を図る必要がある。

さらに改修整備を終え、改修後概ね 30 年後には建物寿命を迎えることとなるが、スクラップ・アンド・ビルド方式での施設整備を展開していく計画は、難しいことが予想されることから、維持保全を適切に行い、大学施設を長寿命化することが鍵となる。

施設整備計画は、「兵教大CMP」の方針等にもとづき、ゾーニング、パブリック、動線等の各種計画、キャンパスの将来計画において重要な事項として策定した 5 部門の各種プラン（学生寄宿舍マスタープラン、屋外体育施設・課外活動施設マスタープラン、職員宿舎マスタープラン、スペースの有効活用、附属学校園マスタープラン）、老朽劣化状況、ライフサイクルコスト等を考慮して策定する。

（計画の詳細は、キャンパス環境委員会で検討し、役員会において決定する。）



VI スペースの有効活用マスタープラン（案）

VI スペースの有効活用マスタープラン

スペースの有効活用について、現状と問題点を整理し、解決策及び整備の方向性を検討した。

（1）現状と問題点

- ・教育研究に必要なスペースが不足。
- ・既存教育研究施設の老朽化対策経費がない。
- ・新たなプロジェクト用スペースがない。
- ・余裕ある室と狭隘な室が混在。

（2）解決策

- ・現状の居室利用者調査（専攻・コースの状況調査）を実施・分析
- ・教育研究スペース毎に維持管理費徴収（チャージ）
- ・競争的スペースの拡充

（3）整備の方向性

- ・使用居室確認調査及び居室利用者調査を踏まえてスペースの再配分。
（スペース再配分システムの構築が必要）
- ・キャンパス環境委員会預かり室の拡大。（競争的スペースの拡充）
- ・スペース毎にチャージした経費にて老朽劣化対策を実施。

○スペースの有効活用マスタープラン

- ・大学の教育研究スペースは、利用者の既得権と考えずに、構成員全員で有効に活用する。
- ・教育研究活動に必要なスペースの面積を確保するために、施設の需給度、利用度等の調査を行い、再配分することを可能とし、研究室等貸付スペースを確保しながら施設を有効に活用する。
- ・施設を適切に維持管理するための施設運営コスト（修繕費）は教育研究機能の確保に必要な不可欠な経費であり、計画的に財源を確保して教育研究施設として安全に使用することができる。一元管理しながら対応することができる屋上防水改修、外壁改修、トイレ改修、執務環境（空調・照明）改善費用にあてる。

VII 屋外体育施設・課外活動施設マスタープラン

VII 屋外体育施設・課外活動施設マスタープラン

屋外体育施設・課外活動施設マスタープラン作成において、現状と問題点を整理し、解決策及び整備の方向性を検討した

(1) 現状と問題点

- ・経年37～41年で老朽化が著しい
- ・老朽化の影響と近隣施設もあり利用率がかなり低い施設がある。
プール、洋弓場は廃止済
- ・維持管理経費が確保出来ていない
- ・現在のニーズにあっていない。(雑草処理、諸修繕がほとんどできていない)
- ・課外活動供用施設(クラブハウス)の老朽化。

(2) 解決策

- ・必要最低限の施設設定(学内外の利用率の高い陸上競技場、野球場、ソフトボール場等)

(3) 整備の方向性

- ・これまでに廃止したプール、洋弓場に加え、利用率が著しく低下した施設は廃止を検討する。
- ・土地有効活用収入を踏まえつつ施設整備を実施。
- ・学外利用率の高い施設の収入を踏まえて維持管理を実施。

○屋外体育施設・課外活動施設マスタープラン

- ・長期的な視点から、屋外体育施設は集約し一部廃止、課外活動施設は整備を行い、維持する。
- ・廃止施設は土地売却又は貸付を検討し、その収入は屋外体育施設、課外活動施設の維持管理に充てる。
- ・整備手法、時期、廃止施設の利用等の詳細については、正課、課外活動の状況等を踏まえて、計画的に進めることとする。



VIII 学生寄宿舍マスタープラン

VIII 学生寄宿舍マスタープラン

学生寄宿舍マスタープラン作成において、現状と問題点を整理し、解決策及び整備の方向性を検討した。

(1) 現状と問題点

- ・経年39～45年で老朽化が著しい（国際交流棟は経年29年）
- ・老朽化の影響と通学者も増えてきたこともあり入居率49%（令和5年10月現在）
＜改修中の居室を除くと入居率56%＞
- ・令和6年度からの大学バス（西神南駅便）の試行運行による入居者への影響が考えられる。
（参考）新三田便利状況（令和4年度実績）

1日平均利用人数（往路）前期18人、後期18.4人

- ・施設整備、維持管理経費が確保出来ていない
- ・現在のニーズにあっていない。（風呂・便所・キッチンが共同など・・・）

(2) 解決策

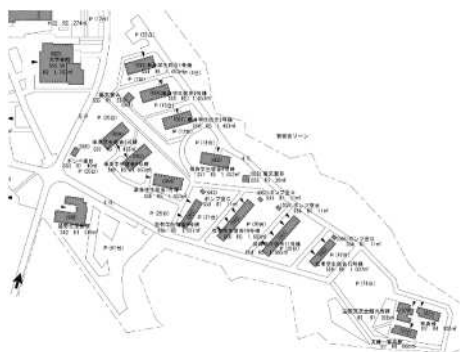
- ・計画的な維持管理の検討
- ・寄宿料の見直しの検討（維持管理費の確保）
- ・必要最低限の室の再設定 ※世帯棟2棟は令和3年度に廃止した。

(3) 整備の方向性

- ・目的積立金等による計画的な整備と維持管理を実施。

○学生寄宿舍マスタープラン

- ・長期的な視点から、学生寄宿舍は、施設整備を行い、入居状況を考慮して一部廃止とする。
- ・整備手法、時期等の詳細については、現在及び新規の入居者へ配慮し、計画的に進めることとする。



单身棟

1. 2. 4. 6. 7号棟：計画的な整備と維持管理を実施。
3. 5号棟：廃止に向けて検討する。

世帯棟

9. 10号棟：廃止済み 取り壊し後は駐車場等への整備を検討。
11. 12号棟：廃止に向けて検討する。

国際交流会館

原則として留学生が入居する。

（満室の場合は单身棟へ入居する。）

IX 職員宿舎マスタープラン

IX 職員宿舎マスタープラン

職員宿舎マスタープラン作成において、現状と問題点を整理し、解決策及び整備の方向性を検討した。

(1) 現状と問題点

- ・経年41～44年で老朽化が著しい。
- ・令和6年度に第一職員宿舎ゾーン（1～5号棟）を売却予定。
- ・老朽化の影響と近隣賃貸住宅の増加等の影響はあるが、第一職員宿舎ゾーンの廃止により入居率はUPしている。（入居率67%(6～9号棟R5.11.1現在)）
- ・施設整備、維持管理経費が確保できていない。
- ・現在のニーズにあっていない。（風呂・便所・キッチンが建設当時のままで時代遅れ）
- ・单身や世帯にあった広さではない。

(2) 解決策

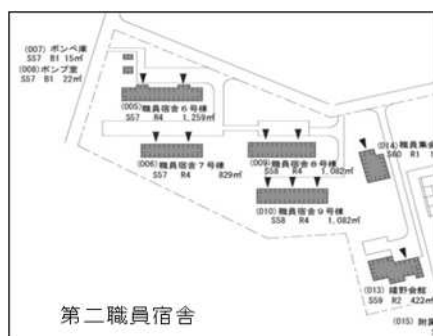
- ・全面リニューアル
- ・宿舎料の値上げ
- ・必要最低限の室設定

(3) 整備の方向性

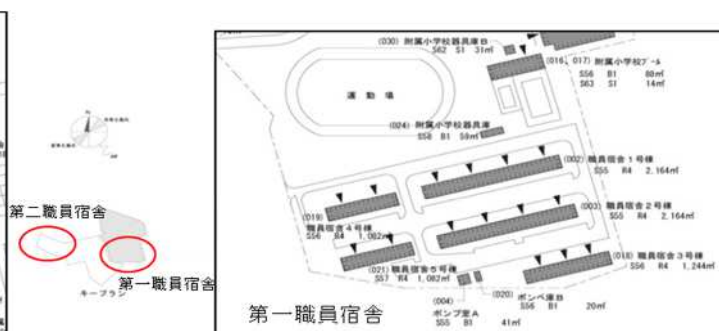
- ・第一職員宿舎ゾーンの土地有効活用を実施（令和6年度売却予定）
- ・第二職員宿舎ゾーンについては計画的な整備と維持管理を実施

○職員宿舎マスタープラン

- ・施設整備及び維持管理にかかる財源は、職員宿舎の土地売却等にて賄うこととする。
- ・整備手法、時期、廃止後の詳細については、現在及び新規の入居者へ配慮し、計画的に進めることとする。



整備及び維持（第二職員宿舎）



令和6年度売却予定

X 附属学校園マスタープラン

X 附属学校園マスタープラン

附属学校園舎マスタープラン作成において、現状と問題点を整理し、解決策及び整備の方向性を検討した。

(1) 現状と問題点

- ・経年35～42年で老朽化が著しい（附属中学校武道場は30年）
- ・手狭な室がある

(2) 解決策

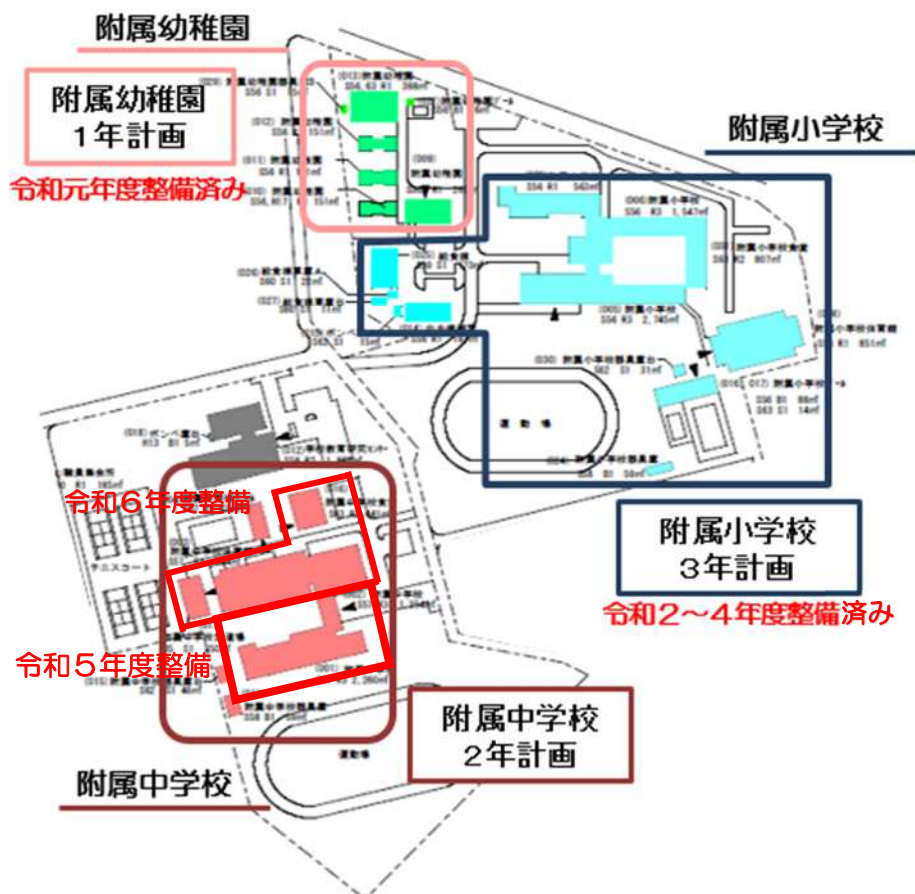
- ・全面リニューアル（整備済み部分を除く）
- ・全面リニューアルに併せてスペースの再配分

(3) 整備の方向性

- ・幼稚園、小学校、中学校と順次整備を進める
- ・スペースの再配分を行い、手狭な室を解消

○附属学校園マスタープラン

- ・附属学校園は機能強化を図りつつ、学校規模の適正化計画に併せてリニューアルを行い、安全・安心な教育研究環境を確保する。



国立大学法人兵庫教育大学
キャンパスマスタープラン

平成24年6月 策定 役員会承認
平成29年3月 改訂 役員会承認
平成30年3月 改訂 役員会承認
平成31年3月 改訂 役員会承認
令和 2年3月 改訂 役員会承認
令和 3年3月 改訂 役員会承認
令和 4年3月 改訂 役員会承認
令和 5年3月 改訂 役員会承認
令和 6年3月 改訂 役員会承認

(お問い合わせ)
兵庫教育大学
総務部環境マネジメント課
TEL: 0795-44-2030
FAX: 0795-44-2029
